



## 〈雑録〉倉庫證券免責條項ノ効力ニ就キテ

川上, 賢三

---

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 6(6):911-917

(Issue Date)

1909-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051403>



# 倉庫證券免責條項ノ

## 效力ニ就キテ

商學士 川上賢三

函館地方裁判所ハ橋本正三郎對安田商事合名會社金森合名會社函館汽船株式會社ノ損害賠償請求事件(四一年ヲ十號)ニ關シ、左ノ判決ヲ下セリ

被告安田商事合名會社ハ金九千九百三十四圓四十一錢九厘、被告函館汽船會社ハ金一千八十六圓二十二錢九厘ニ各明治四十一年二月七日ヨリ辨濟完了ニ至ル迄年六分ノ利子ヲ加算シ原告ニ支拂フベシ、右兩被告ニ對スル其餘ノ原告ノ請求ヲ棄却ス、訴訟費用ハ之ヲ十分シ其六ヲ原告ニ其三ヲ被告安田商事合名會社其一ヲ被告函館汽船株式會社ノ負擔トス、原告ハ執行前安田商事合名會社ノ分ニ對シ金一

萬圓、函館汽船株式會社ノ分ニ對シ金一千百圓ノ保證ヲ立ツル時ハ此判決ヲ假リニ執行スルコトヲ得

今判決文ニヨリ其實事ヲ記スレバ

(前略)明治四十年八月二十五日函館大火ニ際シ、各被告ノ倉庫ハ何レモ類焼シタル爲メ當時原告ヨリ各被告ニ寄託シアリタル海產肥料總計安田商事合名會社ノ分鰈粕千五百九俵鰈粕二千一俵、金森合名會社ノ分鰈粕千百十七俵鰈粕四千四百四俵、函館汽船株式會社ノ分鰈粕五百五十四俵ハ其殆ンド全部ヲ焼失シタリ。元來鰈鰯等ノ鰈粕ハ火災ノ際相當ノ消防ヲ爲セバ其約三割位ヲ焼失セシムルニ止マルヲ一般ノ事例トス。然ルニ被告等ハ倉庫營業者タル職分ヲ有シナガラ平常受寄物ノ保管ニ關シ善良ナル管理者ノ注意ヲ缺キ消防ノ設備ヲ爲サバリシノミナラズ火災後相當ナル救助ノ措置ヲ施サバリシヲ以テ僅ニ殘留シタルモ

ノハ、安田商事合名會社ノ分ハ同社ニ於テ同年十月二十一日競賣ニ付シタル結果一千九百一圓、金森合名會社ノ分ハ同社ニ於テ同年同月二十四日競賣ニ付シタル結果金五千五百五十圓、函館汽船株式會社ノ分ハ同社ニ於テ同年同月十四日競賣ニ付シタル結果金八百九十圓ヲ收得シタルノミ。然レドモ原告ニ於テモ前述ノ大火ハ未曾有ノ事變ニシテ消防意ノ如クナラザリシモノアルノ事情ヲ斟酌スベキヲ以テ被告等ニ於テ消防ニ相當ノ注意ヲ拂フニ於テハ貨物ノ約五割ヲ殘留シ得ベカリシモノトシ本訴請求ノ損害額ヲ計算シ、當時各被告倉庫ニ現在シタル原告寄託ノ貨物ヲ時價ニ換算シ其内ヨリ商慣習ニヨリ風袋ヲ控除シ其五割ヲ燒失スベキ分トセバ、結局被告等ノ不注意ニヨリ原告ハ被告安田商事合名會社ノ分ヨリ得ベカリシ殘貨物代金二萬二千七百六十圓四十二錢一厘トナルニ僅カニ競賣代金千九百一

圓ヲ收得シタルニ止マルヲ以テ差引金二萬八百五十九圓四十二錢一厘、被告金森合名會社ノ分ヨリ得ベカリシ殘貨物代金三萬七千三百四十四圓五十三錢二厘トナルニ僅カニ競賣代金五千五百五十圓ヲ收得シタルニ止マルヲ以テ差引金三萬二千九百九十四圓五十三錢二厘、被告函館汽船株式會社ノ分ヨリ得ベカリシ殘貨物代金三千八百圓四十四錢ナルニ僅カニ競賣代金八百九十圓ヲ收得シタルニ止マルヲ以テ差引金二千九百四十四錢ヲ損失シタルニヨリ各被告ニ對シ本訴請求ニ及ビタリ。(中略)各被告ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求ムト申立テ其各答辯ノ要旨ハ被告ノ受寄物保管ニ付キ損失ノ責ニ任ズルハ雨漏竊盜紛失ノ場合ニ限ルノ特約當事者間ニ存在スルヲ以テ火災ノ爲メニ起リシ損害ハ被告ノ責任ニアラズ(中略)又本件火災ハ我國有史以來ノ一大火災ニシテ人力ヲ以テ到底防禦スベカラザルノ一

大事變ナリ、然ラハ天災事變其他抗拒スベカラザル災厄ニ罹リ生ジタル損害ハ當倉庫其實ニ任ゼズトノ約款ニ基キ假令貨物ノ滅失ヲ來スモ被告ハ其責任ヲ負フベキモノニアラズ。

(下略)

右ニ對シ同裁判所ハ爭點ヲ、第一倉庫寄託ニ於ケル免責特約ノ效力ノ有無、第二倉庫滅失ト同時ニ倉庫寄託契約ノ消滅スベキモノナルヤ否ヤ、第三同一目的物ニ對シ相手方ヲ異ニスル二個ノ損害要償ハ不當ナリヤ否ヤ、第四右火災ハ天災事變其他抗拒スベカラザル災厄ト云フヲ得ザルヤ否ヤ、各被告ハ火災後ニ於テ受寄物ニ對シ善良ナル管理者ノ爲スベキ注意ヲ爲シタリヤ否ヤ、第五原告ノ請求スル數額ハ適當ナルヤ否ヤノ五項ニ分チ立論セリ。第一項ニ就キ論ジテ曰ク、各被告ハ倉庫證券ニ於テ雨漏竊盜紛失ノ外其責ニ任ゼズトノ特約アルヲ以テ火災ニ基ク損害ニ付テハ責任ナシト抗爭スレドモ、商法第

三百五十三條ハ同法第三百七十六條ト相俟テ倉庫營業者ノ責任ヲ規定シ而シテ此等ノ法條ハ之ニ依リテ商取引ノ信用ト安全ヲ期シタル立法ノ趣旨ニ徴シ之ヲ公益規定ト解スベキヲ以テ之ニ牴觸スル免責ニ關スル特約ノ如キハ法律上何等ノ效力ナキモノトス。本件被告主張ノ如ク特約ヲ倉庫證券ニ記載スルコトハ殆ンド全國一般ニ亘ル事例ナルガ如キモ前示見解ノ下ニ悉ク之ヲ無効ト斷ゼザルベカラズ、若シ夫レ斯カル特約ニシテ有效ナリトセンカ自己ノ利益上各倉庫業者ハ舉ツテ雷ニ被告主張ノ如キ免責特約ニ止マラズ尙進ンデ如何ナル場合ニ於テモ一切ノ責任ゼザルベキ旨ノ約款ヲ設ケテ貨主ニ對抗スルニ至ルベク、從テ貨物ヲ倉庫ニ寄託セント欲スルモノハ皆自己ノ不利益ヲ忍ビ其約款ノ承諾ヲ餘義ナクセラル、ノ不都合ナル結果ヲ惹起シ、而カモ斯カル特約モ尙有效ナリトセザルベカラズシテ結局商取引ノ安全迅速ヲ阻害シ、法律ガ

商事寄託ニ關シ特ニ設ケタル前記法條ノ趣旨ヲ沒却スルニ至ルベキガ故ニ其免責事由ノ何タルニ論ナク法律上之ヲ許容スベカラザルモノトス。商法第五百九十二條ニ特約ヲ爲シタルトキト雖モ云々ノ規定アルガ故ニ斯カル明文ナキ陸上運送倉庫寄託等ノ場合ニ於テハ比較解釋上免責特約ヲ許スベキガ如キモ同條ハ當然ノ事理ヲ宣明シタルニ止マリ此規定ヲ俟テ始メテ免責特約ヲ許サズトスルノ法意ニアラズト解スルヲ以テ是レアル爲メニ前記斷定ヲ覆スベキノ論據ト爲スニ足ラズ云々ト。其他第二乃至第五項ニ就キ各論斷セル處アレドモ今暫ク之ヲ措キ本論ニ於テ余ハ此第一項ノミニ就キ攻究セント欲ス、是レ第一項ヲ論ジ是非確定スルトキハ自ラ本判決ノ當否ヲ斷ズルニ足ルベケレハナリ。

論者ハ商法第三百五十三條商人ガ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケザルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコト

ヲ要ス、及ビ商法第三百七十六條倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人ガ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ズトノ二箇條ヲ以テ公益規定ナリト爲スモ此條文ハ商法第三百三十七條運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ビ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ズトノ條文ト共ニ單ニ受寄者運送人ノ責任ヲ定メ舉證ノ責任ヲ明カニシタルニ過キザルナリ。故ニ運送業者ノ發行スル貨物引換證船荷證券ヲ見ルニ免責事項ヲ設ケ前記條文ノ除外例ヲ特約セリ。(海上運送ニ就キテモ亦商法第六百十九條ニ於テ商法第三百三十七條ヲ準用セリ)殊ニ船荷證券ニ於テハ英、獨、佛、白ノ如キ皆契約ノ自由ヲ尊重シテ之レヲ是認シ本

邦ニ於テ一般商慣習トナレリ。往昔ニ溯リテハ船長海員ノ過失怠慢ヨリ生ジタル損害ト雖モ船主之レガ責ニ任ゼザルノ特約ヲ爲シタル時代アリ、彼ノ有名ナル「ブラツクプリンス」號事件ニ際シ此ノ如キ特約ハ無効ナリト判決セラレシモ爾來幾多ノ論議ヲ經、遂ニ一八八五年ノアントワープ國際會議、一八八八年ブラツセル國際會議ニ於テ重大ナル過失ノ場合ニハ特約アルモ尙船主ハ責ニ任ゼザルベカラザルコトニ決定シタリ。我商法ハ舊商法第九百一條末項ニ於テ單ニ過失ニ付キテハ特約アルモ責任アリト規定シタルガ新商法第五百九十二條ニ於テハ一八八八年ノ決議ニ從ヒ重大ナル過失ト改メタリ。乃チ商法第三百三十七條ノ除外例ヲ前提トシテ是認シ唯重大ナル過失ニ付キテハ商法第五百九十二條ニ於テ禁止シタルノミ。由是觀之商法第三百三十七條ハ公益規定ニアラズシテ特約ヲ以テ免責事項ヲ定ムルハ當事者間ノ自由ニ委テタルコト

ハ明カナリ。然ルニ商法第五百九十二條ヲ以テ當然ノ事理ヲ宣明シタルニ止マリ此規定ヲ俟テ始メテ免責特約ヲ許サズトスルノ法意ニアラズト論ジタルハ海法學上著明ナル歴史的事實ト論理トヲ無視シタルノ説ト云フベシ。殊ニ Lyon-Caen 氏ノ如キ重大ナル過失ヲ特約ニテ免責スルモ尙公益ヲ害スルモノニアラズト論ジタルコトアルニ於テハ商法第三百三十七條ニ反スル特約ハ總テ無効ナリトスルハ論據ナキ妄説ナリ。此ノ如ク運送契約ニ於テ免責事項ヲ許サル、モノトセバ同一法意ヲ以テ規定シタル受寄者ノ責任事項モ亦免責特約ヲ許容スルハ余ガ贅辯ヲ俟タズシテ明白ナル處ナリ。

同裁判所又曰ク若シ夫レ斯カル特約ニシテ有效ナリトセンカ自己ノ利益上各倉庫業者ハ舉ツテ雷ニ被告主張ノ如キ免責特約ニ止マラズ尙進ンデ如何ナル場合ニ於テモ一切責ニ任ゼザルベキ旨ノ約款ヲ設ケテ貨主ニ對抗スルニ至ルベク

云々ト、此ノ如キハ現代開明ノ商業界ノ實情ヲ  
悉知セザル言ニシテ、學理ヲ初學者ニ說クニ方  
リテハ論理單純ニシテ攻學者ノ頭腦ニ沁入シ易  
ク講學ノ便アランモ、實際問題ヲ解決スルニハ  
論據不充分ナリトス。商業界ニ於テ苟モ業ヲ營  
マント欲スルモノハ其基礎ヲ信用ノ上ニ樹立セ  
ザルベカラザルハ一般原則ナリ、若シ倉庫業者  
ニシテ往古海運業者ガ運賃取得ノ權利ノミヲ特  
約シタルガ如ク、保管料取得ノ權利ノミヲ規定  
シ何等ノ責ニ任ゼザルノ特約ヲ爲サント企テン  
カ、現代ニ於テハ忽チ貨主ノ同情ヲ失ヒ信用地  
ニ墜チ勢ヒ他ニ貨主ノ意ニ適合スベキ倉庫業ノ  
新設ヲ見ルニ至リ、自由競争ノ結果斯カル特約  
ヲ爲スモノハ遂ニ劣敗者ノ位置ニ立タザルベカ  
ラザルベシ、人誰レカ實業者トシテ斯カル愚ヲ  
學ブベキモノアラン、否倉庫業ハ保管ヲ確實ニ  
爲シ以テ貨主ニ安心ヲ與ヘ各貨主ノ業務ノ發展  
ヲ謀ルガ商業機關トシテノ生命ナリ。要スルニ

論者ノ說ハ實情ニ疎キ一片ノ杞人ノ憂ノミ。我  
邦倉庫業者ハ免責事項ヲ特約スレドモ、此多ク  
ハ人世ニ於テ萬々一起リ得ルモノトシテ豫想セ  
ラル、危險ニシテ其損害ノ生ジタル場合ニ於テ  
ハ低廉ナル保管料ヲ以テ賠償ヲ爲シ得ズ倉庫業  
者自體ノ基礎ヲ危クスルモノ、ミニ限ラレ、多  
少損害ヲ生ジ易キモノ即雨漏竊盜紛失ニ付キテ  
ハ責ニ任ゼリ。斯カル免責事項ハ損害填補ヲ目  
的トスル保險契約ニ於テモ常ニ見ル處ニシテ毫  
モ公益ヲ害スルモノニアラズ。雨漏竊盜紛失ト  
雖モ日常頻々生ズル損害ニアラズシテ千口萬口  
ノ取引中ニ一二ヲ見ルノミ其他ニ於テ損害ヲ生  
ズルコトハ殆ンドアルコトナシト云フモ過言ニ  
アラズ故ニ前記三者ニ付キ責任ヲ有スルトキハ  
其保管ハ確實ナルモノト認メ得ベキナリ。火災  
ニ依リ生ズル損害ハ時々見ルコトアルモ是レ火  
災保險者ノ責ニ任ズベキコトニシテ先年神戸ニ  
於テ數十萬圓ノ火災損害アリシモ何等ノ故障ナ

ク總テ容易ニ解決セラレタリ。唯本件ノ如キ係  
爭事件ヲ生ジタルハ銀行業者ガ寄託者即債務者  
ニ代リテ保險ニ付シ而カモ其保險期間滿了後ニ  
生ジタル損害ニ歸因スト聞ク、銀行業者ガ克ク  
保險期間ヲ繼續シ保險者ノ填補ヲ得タランニハ  
本訴ハ提起セラレザリシナルベシ、即チ銀行業  
者ト債務者關係ノ事件ガ倉庫業者ニ波及シタル  
モノニシテ倉庫業者ノ全ク干知セザル處ナリ。

又免責特約ヲ許ザスト爲サンカ到底低廉ナル  
保管料ニ依リ經營スル倉庫業者ノ堪フベカラザ  
ル處ナルヲ以テ、勢ヒ高率ニ引上ゲザルベカラ  
ズ。是レヲ貨主ヨリ觀察スルトキハ何年カ時ノ  
經過ノ中ニ起ル豫想スル稀有ノ損害ノ爲メニ平  
素高率ナル保管料ヲ支拂フブキハ果シテ商業政  
策上有利ナルモノナリヤ否ヤ頗ル疑問ト爲サバ  
ルベカラズ。貨物ノ諸掛リヲ低クシ物價ヲ廉ナ  
ラシムルヲ以テ急務ト爲ス現代ニ於テハ多少ノ  
免責事項ヲ許スハ寧ロ公益ニ適合スベキ措置ナ

リト云ハサルベカラズ。

上述ノ理由ニ依リ倉庫證券ノ免責特約ヲ許容  
スルハ何等公益ヲ阻害スルモノニアラザルヲ以  
テ斯カル特約ハ有效ナリ、從テ同裁判所ノ判決  
ハ誤判ナリト確信ス。本事件ハ一地方ニ於ケル  
一瑣事ノ如クナレドモ其影響スル處ハ全國倉庫  
業者ニ及ブベキヲ以テ敢テ茲ニ卑見ヲ開陳シ江  
湖學者ノ高教ヲ仰ガントスル所以ナリ。